

令和4年度 学力向上プラン（留意点入）

学校名 中央区立常盤小学校

学校の教育目標

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| ・上品で豊かな心と健康な身体をつくる | ・ 勤労を尊び喜んで自分のつとめを果たす |
| ・ 互いに尊敬し合い協力して平和な社会をきざく | |

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- | |
|---|
| ・自ら主体的に考え計画的に行動ができ、思考力・判断力・表現力を、課題解決のための必要な力を身に付けさせる。 |
| ・国際教育（英語科、地域学習）の学習を通して、国際親善に貢献する態度を培い、伝統や文化を理解する心豊かな人間性を育む。 |
| ・マイスクールスポーツを充実させ、体力向上に努める。 |

令和3年度「学習力サポートテスト」や令和3年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<ul style="list-style-type: none">・R4年度の学力サポートテストの結果は、ほぼ全国平均正答率を上回っているが、自分の考えを明確にして文章に書くことや、話すこと聞くことなど、思考力・判断力・表現力に課題がある。	<ul style="list-style-type: none">・文章を書くための基本的な力を、系統立てて指導するよう授業改善が必要。・書いたり、自分の言葉で発表したりする時間を十分に確保することが必要。
算数	<ul style="list-style-type: none">・R4年度の学力サポートテストの結果は、全ての観点で全国平均正答率を上回っている。・5・6年は思考力・判断力・表現力の観点が、わずかではあるが区の平均正答率を下回っている。式や図、数直線など多様な方法を理解する数学的思考力に課題がある。・必要な情報を理解・解釈・推論し解決していく、問題解決能力に課題がある。	<ul style="list-style-type: none">・式や図、数直線など多様な方法を考えさせる時間の確保が必要。・資料から必要な情報を読み取り、自分の考えを深めたり伝えたりする力を身に付けるよう授業改善が必要。・数学的なものの見方を深めるための指導方法を、算数学習熟度委員会で共通理解を図り実践していく必要がある。
社会	<ul style="list-style-type: none">・R4年度の学力サポートテストの結果は、ほぼ全国平均正答率を上回っているが、5・6年は、思考力・判断力・表現力の観点が、わずかではあるが区の平均正答率を下回っている。・資料活用や必要な情報を正しく読み取る課題解決能力に課題がある。	<ul style="list-style-type: none">・資料を読み取り、考えを表現したり、資料から正確な情報を取り出し自分の考えをまとめたりする力の育成が必要。・思考力・判断力・表現力を身に付けさせるための指導計画を見直すことが必要。
理科	<ul style="list-style-type: none">・R4年度の学力サポートテストの結果において、知識・理解の観点が、4年2.3ポイント5年2.7ポイント、6年4ポイント区の平均を下回っている。また、6年は、主体的に学習に取り組む態度が1ポイント区の正答率を下回り、他学年も正答率が高いとは言えない。	<ul style="list-style-type: none">・児童が主体的に学べるように体験的な学習や、実験観察の技能、観察方法に関する指導力向上・授業改善が必要。・課題解決型の授業を行うよう改善が必要。・学習内容が定着するよう、振り返りの時間を確保するとともに既習内容を繰り返し学習する必要がある。

英 語	<ul style="list-style-type: none"> ・R4年度の学力サポートテストの結果において、全国平均を上回っているが、書くことの領域については、他領域に比べて課題がある。 ・習った単語や既習事項の sentence をなぞってみたり、書いてみたりすることについても目標とする。 ・主体的に取り組む態度が、区の平均正答率を2.2ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・English File を利用し、文字を実際になぞったり書いてみたりする時間を確保していく必要がある。 ・教材教具の活用方法を工夫し、授業が主体的に学べるように授業改善が必要。
体育・保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・R4年度体力調査の結果は、ほとんどの学年が東京都の平均を上回っているが、ソフトボール投げの記録が東京都の平均を下回っている学年が多く、投力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・投力を高める運動の不足。授業改善を行い、課題克服のための運動を継続的に行う必要がある。 ・外部講師からご指導いただいた投げ方の基礎基本を生かした運動を継続的に行う必要がある。

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書くための基本的な力が身に付き、自分の考えを書いたり、発表したりすることができる。「R5年度学習力サポートテスト」の書くこと、話すこと・聞くことが、区の平均正答率を上回る。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的思考力を身に付けさせるために授業改善を行い、「R5年度学習力サポートテスト」では、思考力・判断力・表現力の観点で区の平均正答率を上回る。
	社会	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み取り、自分の考えをワークシートに記入したり、発表したり考察を深めることができる。
	理科	<ul style="list-style-type: none"> ・事象の本質を捉え、自分の考えを深めることができる。 ・「R5年度学習力サポートテスト」で区の平均正答率を上回る。
	英語	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に英語を活用しようとしている。 ・English File を利用し、文字をなぞったり、書いたりすることができる。 ・「R5年度学習力サポートテスト」ですべての領域において区の平均正答率を上回る。
	体育	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果を受け、区の平均以下について検証を行い、指導計画を修正し、体力向上を図る。
②授業改善		<ul style="list-style-type: none"> ・思考力・判断力・表現力を育成するために、各教科の特質をふまえた指導の工夫と、教科横断的視点から相互の関連付けを図り、指導体制を整える。 ・基礎的・基本的な学力の定着を図るための指導計画及び単元構成を行うとともに麻の時間等を有効に活用する。 ・教員間で互いの授業観察を行い、授業の課題を把握し改善する。 ・考える時間や意見交換の時間を確保し、個の考えを広げたり深めたりする。
③家庭との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会等で、タブレット端末の取り扱いや活用の仕方などを動画発信し、学校教育に理解と協力を求めていく。
④体力向上		<ul style="list-style-type: none"> ・マイスクールスポーツなど、日常的に意識して取り組みながら、体力向上を図る。 ・場の工夫や指示を精選し、運動量の確保をする。 ・教材研究を丁寧に行い、児童が主体的に問い組めるように指導方法を工夫する。



【目標達成のための具体的な取組内容】

①各教科	
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の授業だけではなく、自分の考えをまとめ、書いたり、発表したりすることを、教科横断的な視点から相互に関連付けを図り指導を行う。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人の成果や課題を明確にし、算数習熟度委員会を中心に、数学的なものの見方を深めるための指導方法について共通理解を図る。 ・東京ベーシック・ドリル及びミライシードを活用し、基礎・基本の定着を図る。 ・ノートの使い方、授業の流れやまとめがわかるように、ノートの書き方やまとめ方を指導する。 ・東京ベーシック・ドリルの診断テストを年2回行い、結果を分析しフローチャートで可視化をする。個別に指導が必要な児童には、担任・算数科担当教員・区講師が共通理解を図り、繰り返し取り組ませる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み取るための視点や、自分の考えをまとめてワークシートに記入し、さらに考察を深めるための必要な手立てを指導する。 ・ミライシードを活用し、地図やグラフ、必要な情報を読み取り、資料を活用する機会を多く設定する学習活動の工夫と、自分の言葉でまとめたものを、発信する力を付ける指導を行う。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の機会を増やし、事象の本質を捉えるための視点や、自分の考えを深めるための手立てを指導する。 ・タブレット端末を活用しながら、児童の主体性を促し、各自の課題や考察や結論に至るまでの構造的な指導を行う。 ・学習の定着を図るために既習事項を確認する時間を確保する。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTと連携を行い、English Fileの活用方法等を考え、指導に生かす。 ・既習事項を活用し、試す場を設定する。
体育・保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の準備運動として、リズムダンスや、マイスクールスポーツの縄跳び、ペースランニングを行い、年間を通して楽しみながら体力向上を図る。
②授業改善	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す児童像を教員間で共通理解を図り、その実現のために、英語科での表現力・判断力・表現力を身に付けさせるための指導計画を再検討することが必要である ・思考力・判断力・表現力を育成するために、自分の考えをまとめて書いたり、発表したり、他者の話を聞いて自分の考察を深めたりできる時間を十分に確保し、教科横断的に相互に関連付けを図りながら指導を行う。 ・基礎的・基本的な学力が確実に身に付くように個に応じた課題を設定し、個別指導を充実させる。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科、領域で、課題解決型学習及び既習事項の活用を行う。児童が課題を的確に捉え、解決に向けた手段や、自ら計画を立てられるような授業を行う。 ・授業の始まりや終わり、単元の始まりや終わりでは、学習の振り返りを確実にを行い、学習内容の系統性や繋がりを重視した授業計画を行う。 ・思考の順序が分かるように板書を工夫し、思考が整理できるようにする。

③家庭との連携

取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none">・年度当初の保護者会等で、タブレット端末の取り扱いや活用の仕方などを動画発信し、学校教育に理解と協力を求めていく。・学年、学級の学習の様子を、学年だより、年2回の学校公開、保護者会、個人面談、クラスルーム等の発信で知らせていく。個別に対応が必要な場合は、電話等で随時連絡をしていく。・道徳授業地区公開講座や学校公開等で担任の指導の様子や、児童の様子を参観していただき、アンケートを通して今後の指導に生かす。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none">・家庭学習については、その重要性について共通理解を図るとともに、家庭にも協力を求める。・各学力テストの結果を基に、保護者会、個人面談で課題等の共通理解を図る。

④体力向上

取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none">・体育部アプリや ICT を活用し、グルーピングの方法、動画の使い方、振り返りの方法などを取り入れ、体育授業の改善と児童の体力向上を図る。・年間を通して重点的に、柔軟性を高めるための指導を行う。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none">・授業の準備運動として、リズムダンスや、マイスクールスポーツの縄跳び、ペースランニングを行っていき、年間を通して楽しみながら体力向上を図ることができるように、全学年で取り組む。・外遊びを推奨し、遊びを通して体力向上を図ることを児童に理解させ、指導を行う。